

日英教育学会 JAPAN-UK EDUCATION FORUM NEWSLETTER No.43 2014/7/25	日英教育学会事務局 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35 京都女子大学発達教育学部 谷川研究室内 TEL 075-531-7283 tanigawa@kyoto-wu.ac.jp
--	--

日英教育学会第23回大会のご案内

会場：常葉大学瀬名校舎

教室：3302教室、3304教室（3号館）

第1日（9月1日<月>）

- 10：30 ～ 受付
- 10：30 ～ 12：00 運営委員会（3304教室）
- 12：00 ～ 12：50 シンポジウム打ち合わせ（3304教室）
- 13：00 ～ 14：00 基調講演（3302教室）
- 講師 安彦忠彦氏（名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授）
- 「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価」
- 14：10 ～ 16：00 シンポジウム 「日英のカリキュラム改革と学力観」
- 16：00 ～ 17：00 総会
- 18：00 ～ 20：00 懇親会（学外のレストラン会場）

第2日（9月2日<火>）

教室：3304教室

- 9：00 ～ 受付
- 9：30 ～ 11：50 個人研究発表（一人35分）
- (1) 「イギリスの教育における訴訟と判例」
永田 喜裕（名古屋大学大学院教育発達科学研究科）
- (2) 「イギリス連立政権下のアカデミー政策」
青木 研作（西九州大学）
- (3) 「英国の大学図書館における特別支援の取組みと特別支援担当の根底意識」
担当区分と支援体制区分を視座に（仮） 松戸 宏予（佛教大学）
- (4) 「イングランドにおける管理職養成改革」
植田 みどり（国立教育政策研究所）
- 12：00 ～ 12：30 全体討議
- 13：30 ～ 15：00 学会企画『英国の教育』（仮称）発刊について
- 15：00 終了

《大会参加費》 1000円（一般）、500円（学生）

《懇親会費》 4000円（予定：参加人数によって若干変更あり）

【交通アクセス】

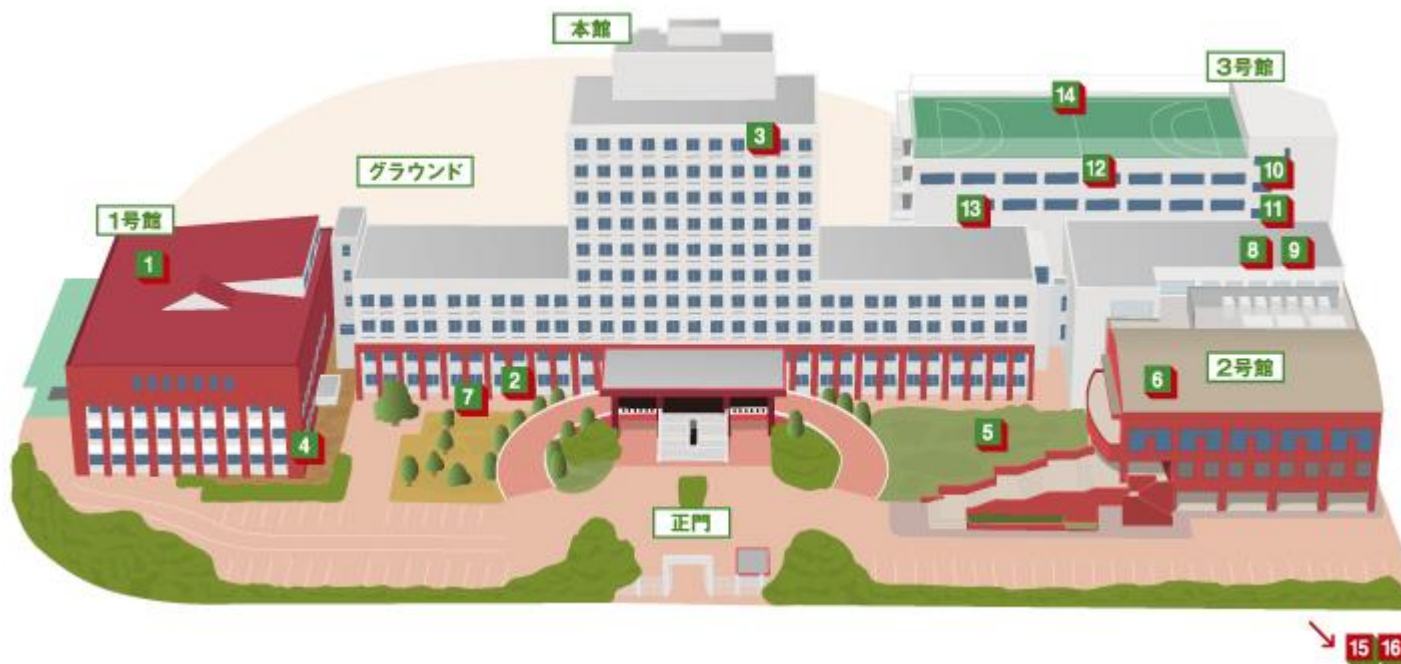
JR 静岡駅から

- ・しずてつジャストラインバス静岡駅北口 6 番のりばから、『竜爪山線(瀬名川経由)[61] 瀬名新田行』または『竜爪山線[63] 則沢行』に乗車。(約 25 分、運賃：350 円)
- ・「西奈中学・常葉大学入口」で下車、徒歩 5 分

JR 草薙駅から

- ・しずてつジャストラインバス草薙駅前バス停留所から『草薙瀬名新田線 瀬名新田行』に乗車。(約 15 分、運賃 200 円)
- ・「西奈中学・常葉大学入口」で下車、徒歩 5 分

静岡キャンパス (瀬名校舎)



温暖な静岡市の文教地区の高台にあるキャンパスです。

【シンポジウム趣旨】

テーマ 「日英のカリキュラム改革と学力観」

「21世紀型」の学力を巡る議論が活発になってきました。今年の春、国立教育政策研究所が発表した報告書『資質や能力の包括的育成に向けた教育課程の基準原理』（国立教育政策研究 2014.3）や東京大学の学校教育高度化センターでの議論などはその典型です。きっかけは全国学力学習状況調査のB問題、OECDのキー・コンピテンシー論など、様々です。

また、文部科学省に設置された「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」でも次の学習指導要領の改訂を視野に入れた議論が展開されました。その際参考として検討されたものの1つがイギリスの学力観やカリキュラム論です。

本シンポジウムではそれぞれのシンポジストから日英の議論を解説、考察していただき、日本での学力論やカリキュラム論への示唆を頂きたいと思っております。そして、それらのご発表を題材として、学会としても日本における学力論やカリキュラム論、今後の新しい教育を担うべき教員養成の在り方等について、総合的に活発な議論を展開させたいと考えています。

《基調講演》

講師 安彦忠彦氏（名古屋大学名誉教授、神奈川大学特別招聘教授）

「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価」

シンポジスト

安彦 忠彦 氏

安藤 雅之 氏（常葉大学教職大学院研究科長）

鋒山 泰弘 会員（追手門学院大学教授）

司会： 小松 郁夫（常葉大学）

基調講演者及びシンポジストの紹介

安彦忠彦 氏

1942年東京都生まれ。東京大学教育学部卒業、大阪大学文学部助手、愛知教育大学教育学部専任講師、同助教授、名古屋大学助教授、同教授、早稲田大学教育・総合科学学術院特任教授を経て、2012年4月より神奈川大学特別招聘教授。

名古屋大学教育学部附属中・高等学校長、同大学教育学部長などを歴任。2005年1月より第3期中央教育審議会委員。専攻は教育課程（カリキュラム）論（主に中等教育）を中心に、教育方法、教育評価。博士（教育学）。

《主な著書》

『改訂版 教育課程編成論 学校は何を学ぶところか』放送大学教育振興会、2006年

『カリキュラム開発で進める学校改革』明治図書、2003年

『中学校カリキュラムの独自性と構成原理』明治図書、1997年 博士論文

『新学力観と基礎学力』明治図書 1996年

『自己評価 「自己教育論」を超えて』図書文化 1987年

安藤雅之 氏（常葉大学初等教育高度実践研究科長）

専門分野：社会科教育

日本エネルギー環境教育学会、日本比較文化学会、日本学校教育学会 等の理事

《主な著書》

- ・「今こそ『Learn』から『Study』への学習観の転換を」(日本学校教育学会紀要)
- ・「カンボジアにおける初等教育の現状と教員養成の課題」(常葉学園大学研究紀要)
- ・『子どもの自己形成過程を重視した生活科の授業づくり』(安藤 雅之・田宮縁編著) など

鋒山 泰弘 氏 (追手門学院大学教授)

京都大学大学院 教育学研究科 修了

京都大学 教育学部 助手、追手門学院大学 文学部 講師、助教授を経て現職。

《主な著書》

- ・「教師になること、教師であり続けること」(共著)
- ・「現代イギリスにおける「固定的能力」観を克服する教育実践の特質」(単著)
- ・『「評価の時代」を読み解く：上』(共著)
- ・『授業と評価をデザインする：社会』(共著)、『教育実習 64 の質問』(共著) など

所属学会

教育目標・評価学会 常務理事、日本カリキュラム学会、日本教育学会、日本教育方法学会

【学会企画『英国の教育』(仮称) 発刊について】

この30年余、英国の教育は社会変容の中で目まぐるしい改革の対象となってきた。英国は古き良き伝統の国である反面、世界の動向に先駆けた数々の改革を展開する「急速に変化する国」でもあるといえる。このような変化とともに古くからの制度が存在し、また階層社会を反映した多様な文化が見られるなど、とても複雑な様相を呈している。

このような国の教育を研究対象としているわれわれも最新の情報や近年の動きを追う場合に困難に直面することは多いが、英国に関心を寄せる一般市民や英国の教育を勉強しようとしている初学者にとって、最新の、また確実な情報や全般的な理解をするために不可欠の入門書は皆無という状況が続いている。

もちろん英語の入門書やインターネットから得られる情報はあがるが、体系的に英国の教育情報を取得するのに適当な文献がないことは、英国の教育に関心をもちてもらおう人々の輪を広げ、優秀な後進を育てるという観点からは決して望ましいとはいえないであろう。

学会創設からはや20有余年を経過した現段階で、上記のような英国の教育の全般的な理解ができるような文献を発刊することは、本学会の社会的な使命であるといってもよいと思われる。もちろん英国のみならず世界の情勢も時々刻々変化していくものであるから、それにあわせて今後も定期的に改定版を刊行していくことが望まれるであろうが、その中核となるべき文献をまず刊行し、今後はそれを軸にしながら英国の状況に対応させていかなければならないであろう。

幸いにして本学会には英国を研究対象とする多彩なメンバーを擁しており、就学前教育から高等教育まで、また教育制度、政策、歴史、さらには社会構造の特性と教育との関連等々、多様なテーマで研究が展開されてきている。このような状況を踏まえて、英国教育に関する概説書はあまり大きな負担を強いることなく、刊行可能であると考えている。

このような書物が刊行されれば、大学等での講義の教科書として利用できるだけでなく、英国教育に関心を持つ人々が増えていくことが大いに期待できると思われる。

運営委員会報告

2014年3月29日、TKP 神田ビジネスセンターにて2013年度第三回運営委員会を行いました。概要は次のとおりです。それぞれの詳細については、本ニューズレターの別項をご参照ください。

- (1) 2014年度大会について
- (2) 紀要第18号について
- (3) 著作権について
- (4) 運営委員選挙について
- (5) 教育関連学会連絡協議会総会について
- (6) その他

上田代表から英国教育を紹介する図書の刊行が提案され、了承されました。

(谷川 至孝)

紀要編集委員会より

現在編集委員会では大会時での配布を遵守すべく、次号の編集作業に努めております。ご協力いただいた皆様には改めて御礼申し上げます。

残念ながら学会活動および紀要の中心となるべき、研究論文の投稿は1本に留まりました。本稿については複数の会員による丁寧な査読が行われ、現在適切なプロセスを進めております。

大会時における発表はもちろん、研究論文の執筆・投稿の活性化は学会の充実・発展に欠かせません。会員の皆様による積極的な投稿をお願いいたします。

(沖 清豪)

運営委員選挙について

選挙管理委員会委員長小口功会員、同委員岡本洋之会員のもと、日英教育学会運営委員選挙が実施されました。2014年6月末日投票締め切りで投票総数41、投票率36.3%でした。なお、前回の投票総数は31でした。

投票結果については、9月の大会で報告されます。

お詫びとお願い（所属について）

運営委員選挙の際、「日英教育学会被選挙人名簿」をお送りいたしました。その後、数名の会員の方々から、正確な所属についてご連絡いただきました。ご連絡いただいた所属は下記のとおりです。ご指摘いただいた会員の方々にお礼申し上げますと共に、謹んで訂正させていただきます。

白幡真紀	(日本学術振興会特別研究員／東北大学)
中島千恵	(京都文教大学)
浪本勝年	(なし)
野口剛	(帝京大学)
平阪美穂	(京都聖母女学院短期大学)
安原義仁	(広島大学)

なお、他にも所属あるいは住所等がご変更になった会員もおられるかと存じます。6月に実施しました選挙においても、何通か住所不明で返送されています。

ご変更の際には、是非とも学会事務局にご連絡いただきますようお願いいたします。

紀要の原稿を募集しています

学会紀要『日英教育研究フォーラム』19号（2015年9月発行予定）の自由投稿論文を募集しています。締め切りは2015年4月末日、提出先は以下のとおりです。

「日英教育研究フォーラム紀要編集委員会」 kiyou@juof.sakura.ne.jp

〒162-8644

東京都新宿区戸山 1-24-1 早稲田大学文学学術院 沖清豪研究室気付

執筆要領につきましては、紀要17号の『日英教育研究フォーラム』論文投稿規定」をご参照ください。

また、「書評」でとりあげる図書も募集しています。自薦、他薦を問いません。情報をお寄せください。

紀要電子化事業の進捗報告

今回、本学会紀要の電子化事業を担当することになりました西武文理大学の宮島です。会員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。以下、6月現在の紀要電子化事業の進捗状況を報告します。

すでにご存知かと思いますが、紀要の電子化にはいくつか方法があります。例えば、学会ホームページで公開したりする方法です。もう一つの方法として、学術論文検索等のデータベースに登録してもらうという方法もあります。運営委員会で方法を諮った結果、前者の方法だけでも目的は十分かなうのかもしれないが、それと同時に後者の方法もとることで、学会としてより広くその研究成果を社会に還元できるのではないかという結論に至りました。そこで、さっそく後者の方法についてアクションを起こしました。

現在、学術論文のデータベースの中で最も利用者が多いのは、国立情報学研究所（NII）が管理運営する CiNii です。一昨年、この事業が運営委員会で検討課題となった後、NII に対して CiNii への登録について問い合わせました。その段階では、本学会は日本学術会議の一団体であることから、本学会紀要は NII が管理運営する NII-ELS に申請さえすれば、無料かつ自動的に CiNii へ搭載されるとのことでした。ただし、その段階では紀要に掲載された論文の著作権委譲の問題があり、直ちに申請することはできませんでした。先日、ようやく著作権委譲の問題がクリアされましたので、NII に再度問い合わせました。ところが、状況は一変しておりました。国家財政の厳しい状況のもと、予算縮小の波が NII にも届き、NII-ELS の運営事業が見直され、あろうことか新規登録の受付が中止になってしまったのです。

そこで、急遽、科学技術振興機構（JST）が管理運営する J-STAGE への搭載に向け、先日、利用登録の申請を行いました。J-STAGE に搭載されても、CiNii から論文検索することは可能だからです。

しかしながら、J-STAGE も予算が縮小され、かつ NII-ELS が新規登録中止ということもあり、本学会同様、紀要搭載を希望する団体が殺到しているとのことでした。そのため J-STAGE としては、限られた予算の中で運営していくためには、各学会、各紀要に掲載への優先順位をつけ、上位から順に処理をしていくとのことでした。JST の担当者がおっしゃるには、その優先順位は、会員数や紀要掲載の論文数などによって決められるとのことでした。

さて、先日 J-STAGE 搭載の優先順位を審査する会議が開かれ、担当者から審査の結果をいただきました。結論を言いますと、残念ながら、本学会紀要は掲載論文数が少ないとの理由で搭載への優先度が低いと判断されてしまいました。J-STAGE および CiNii への搭載は今しばらく時間がかかることとなりました。

CiNii に搭載されるまで、私がまずできることは、本学会ホームページでの紀要の公開です。具体的な日程は、運営委員会内で検討してまいります。詳細が決まり次第、会員の皆様にはご連絡いたします。

加えて、会員の皆様方も、ふるって紀要に論文を投稿していただきますようお願いいたします。自由投稿論文の掲載数が現状の2倍、3倍になればおのずと J-STAGE への搭載の優先順位もあがります。

最後になりましたが、ホームページにつきましてご意見、アドバイス等ございましたら、どうぞ学会事務局にご連絡ください。会員の皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

（宮島健次）

学会会費をお支払ください

2014 年度会費をお支払ください。

また、過年度会費未納の方につきましては、併せてお支払いをお願いします。

三カ年会費未納の方は、除籍されます。

くれぐれもご注意ください。

〈編集後記〉

今年の祇園祭は前祭と後祭に分けて行われています。つまり、山鉾巡行が二度あるわけですが、49年ぶりだそうです。例年、祇園祭が始まる頃には（今年の祇園祭は7月1日から31日までです）、ニューズレターの発行を終えています。今年は大幅に遅れご迷惑をおかけいたしました。

さて、運営委員の選挙が終了しました。別項で記載のとおり、前回と比べ投票総数は31から41に増加しています。今回の選挙では、切手を貼付した返信用封筒を同封しました。また、Eメールにてご投票の督促もさせていただきました。その成果が少しはあったかと安堵しています。また、2013年度の学会費納入率は75%です。こちらも一定の水準は維持できているのではないかと考えています。

もちろん、まだまだ十分な投票数とは言えませんが、ご投票いただいた方々には感謝申し上げるとともに、学会及び学問の発展に向け、すべての会員の方々の一層のご協力をお願いいたします。

祇園祭が終われば夏本番です。くれぐれもご自愛ください。 (谷川)

すでにEメールにてご連絡いたしましたとおり、事務局が下記に移転しています。

ただし、会費のご入金先等は変更ありません。

日英教育学会 (Japan-UK Education Forum)

代表 上田 学

◆事務局 〒605-8501 京都市東山区今熊野北日吉町 35

京都女子大学発達教育学部・谷川至孝研究室

TEL 075-531-7283

◆問い合わせ先 青木研作 aokik@nisikyu-u.ac.jp (入退会等)

谷川至孝 tanigawa@kyoto-wu.ac.jp (会計等)

上田 学 manabu-ueda@cs.kinran.ac.jp

◆郵便振替 00170 2 780381 日英教育学会

◆三井住友銀行 武蔵関支店 総合 6651815

日英教育研究フォーラム事務局長 谷川至孝